

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
○当該学年までに配当された漢字や語句の意味を理解して話や文章の中で正しく使う力。	○中心となる語や文、必要な情報を見付け、文の全体像を具体的に想像する力。 ○自分の考えと事実や理由を分けて相手に伝わる文章を書く力。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 新出漢字や語彙の定着が不十分である。 イ 文章問題の間違った読解をしてしまう。	ア 新出漢字や語彙を使った短文作りに取り組みさせる。 イ 文章の内容理解ができるように、範読を繰り返し行い、文脈にある大事なところを見付けることができるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】57% ○日記を週末の課題に設定し、新出漢字や語彙を使った文章を書く習慣ができた。 イ 市学力調査【思考・判断・表現】50.5% ○指示語の対象を見付けることができた。
第5学年	ア 文章の読解や問いに答えることができていない。 イ 自分の言葉で説明することが苦手である。	ア 文章の内容理解ができるように、範読を繰り返し行う。日常的に辞書を使った意味調べをする。 イ 書いた文章を友達と読み合う場面を設定し、様々な表現方法があることに気付かせる。話型を提示する。	ア 市学力調査【知識・技能】+0.5% イ 市学力調査【思考・判断・表現】+10.9% ○範読を繰り返すことで、文章の大事なところを見付けることができる児童が増えた。
第6学年	ア 新出漢字や語彙の意味が定着していない。 イ 叙述を基にして、自分の考えをもち、文章や発表等で表現できていない。	ア 新出漢字の定着を図る課題や、小テストを実施する。読解単元の学習前に、辞書を使った意味調べの時間を設け、取り組みさせる。 イ その日にあったことを振り返る文章を書くことを通して、文章を書くことに慣れ親しめる状況を作る。	ア 小テスト、カラーテスト【知識・技能】 イ 小テスト、カラーテスト【思考・判断・表現】 ○事前の意味調べや小テストの復習を細やかに行うことで、語彙を増やすことができた。 ○体験したことや考えたことを振り返り、短い文章にすることで、読み手にとって、分かりやすい文章を書ける児童が増えた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：タブレット PC のドリル教材を活用して、正答率が低い新出漢字の反復練習に取り組む。 5年：タブレット PC を活用して、ドリル教材に取り組む。 6年：タブレット PC を活用したドリル教材を使うことで、語彙を増やしていく。	4年：学習したことを廊下掲示や「学びの壁」を活用し、いつでも見返すことができるようにする。 5年：学習したことを廊下掲示や「学びの壁」を活用し、いつでも見返すことができるようにする。 6年：学習したことを廊下掲示や「学びの壁」を活用し、いつでも見返すことができるようにする。

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
☐ ア 知識及び技能	☐ イ 思考力、判断力、表現力等
○数量や図形などの基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、数理的に処理する力。	○問題場면을具体的に想像し、数量の関係に着目して、根拠を基に道筋を立てて考えたり、立式したりする力。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	☐ ア 四則計算の定着が不十分である。 ☐ イ 文章問題から何を求められているか分からず、演算決定ができていない。	☐ ア 朝学習や授業の導入で、四則計算に取り組む時間を設定する。 ☐ イ 文章問題を読み、何を求められているのか、文章に線や印を付け、見付けることができるようにする。	☐ ア 市学力調査【知識・技能】52% ○主につかけ算の定着が見られた。 ☐ イ 市学力調査【思考・判断・表現】43.9% ○文章から立式できる児童が増えた。
第5学年	☐ ア 四則計算の定着が不十分である。 ☐ イ 文章題からの立式が苦手である。	☐ ア 朝学習や授業の導入、家庭学習などでタブレット PC を活用し、四則計算の時間を設定する。 ☐ イ 文章題の単位から立式の仕方を考えさせる。立式に必要な情報を読み取らせ、確認する。文章題の内容を、図や表に表して考える場面を設定する。	☐ ア 市学力調査【知識・技能】7.7% ☐ イ 市学力調査【思考・判断・表現】0.8% ○文章題の単位から、求めることを考えて立式しようとする児童が増えた。
第6学年	☐ ア 四則演算（主につかけ算・わり算）の定着が不十分である。 ☐ イ 文章問題から何を求められているか分からず、演算決定ができていない。	☐ ア 朝学習や授業前に基礎計算の時間を設け、四則演算の力を高めていく。 ☐ イ 教員と文章を丁寧に読み込み、言葉から求められている答えを割り出すための演算が何であることを把握し、演算決定が自力でできるようにする。	☐ ア 東京ベーシックテスト【知識・技能】 ☐ イ 東京ベーシックテスト【思考・判断・表現】 ○友達と考えを共有する時間を設定することで、自分の考え方を説明ができる児童が増えた。 ○式だけで考えるだけではなく、図などに表すことで整理できる児童が増えた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：タブレット PC のドリル教材を活用して、四則計算の反復練習に取り組む。 5年：タブレット PC を活用して、ドリル教材に取り組む。 6年：タブレット PC のドリル教材を活用して、四則演算の力を定着させる。	4年：導入で毎時間めあてを確認し、学習の見通しをもたせる。最後に振り返りを書かせる時間を設け、自己の振り返りを行わせる。 5年：廊下掲示や「学びの壁」を活用し、学習したことをいつでも見返すことができるようにする。 6年：問題を提示し、そこから問題解決への見通しを立たせる授業の流れを作る。学習内容を振り返り、まとめる時間を設け、学習内容の定着を図る。